



観察では困難だが、誰が会っても不思議はない

エゾセンニュウ *Locustella fasciolata* は、日本では北海道で繁殖する夏鳥であり、同地では多数の観察や鳥類標識調査の記録がありますが、春秋に通過する本州以南では極めて記録が少ない野鳥です。

その理由としては、ほぼ全身がオリーブ褐色で目立つ羽色ではないこと、春秋の渡り時期のため特徴的な囀りも聴かれないこと、(おそらく)かなり茂った林内を潜行することなどがあります。

しかし秋の渡り時期に通過しているのは確実であり、いつ・誰が会っても不思議ではありません。「その日」のために、観察できる可能性の高い場所・環境をチェックしておきましょう。



▲写真 1 エゾセンニュウ PHOTO◎岩田篤志

200.10.16. 香川県高松市峰山

県内の記録

香川県では、1974年10月12日に高松市小田池での記録(香川野鳥の会, 1977)、1991年9月22日に三豊干拓での探鳥会で2羽の記録(日本野鳥の会香川県支部, 1991)があります。ただし、いずれも詳細な記載は無く、特に1991年の三豊干拓地の記録については、当日の観察会のリーダーの方は見ておらず、話題としても記憶に無いとのことでした。エゾセンニュウは基本的に茂った林内を好む種であり、ちょっと観察場所に疑問が残ります。むしろ、類似するシマセンニュウは干拓地等を好むことから、これらの記録はシマセンニュウ(尾羽の磨耗した幼鳥など)の誤認である可能性が否定できません。

確実な記録としては、2000年10月16日、筆者(岩田)が高松市峰山で鳥類標識調査を実施した際に標識放鳥した1羽(性不明・第1回冬羽)の記録と、2011年8月29日に、繁里昇氏によって坂出市五色台で鳥類標識調査で確認された1羽(性不明・幼鳥)の記録があります。

いずれも秋の渡りシーズンの記録であること、山地の林内での捕獲記録であることがポイントです。

四国近辺の記録

愛媛県では、次の3件の鳥類標識調査での記録が得られています(井戸ら, 2009)。

- ①1998年9月5日 愛媛県宇和郡愛南町高茂岬 1羽(性不明・幼鳥) ※愛媛県初記録
- ②2007年9月21日 東温市内 1羽(性不明・幼鳥)
- ③2008年9月23日 南宇和郡愛南町高茂岬 1羽(性不明・幼鳥)

環境としては①と③は広葉林内、②は樹高2m程度の灌木林(休耕田)とのことでした。

また、佐田岬での灯台衝突死の記録が、春(4~6月)に3件、秋(8~10月)に1件あるようです。

徳島県では3例の春の囀り確認と1例の秋のぐぜり記録(日本野鳥の会徳島県支部, 1988)のほか、未発表の1989年6月4日の阿南市津乃峰山での囀り記録があるそうです(井戸ら, 2009)。

高知県は記録が見つかりませんでした。

また、愛媛県と大分県の間に位置する水ノ子島灯台では、1961年から1963年までの間に、春19回263羽、秋3回4羽の衝突死の記録があります(石沢・中村, 1964)。この記録は既に50年以上前のものであり、現在とは個体数も周辺海域の環境等も異なると思われますが、愛媛→大分の渡りコースが存在する資料であると考えられます。

渡りコースの考察

石沢・中村(1964)は、春秋ともに九州-四国-大阪というルートがあると推測し、本州中部を抜けるルートのみ春には存在しない、と推測しています。

しかし山根(2015)は、1982年-2011年の30年間の鳥類標識調査の結果を日本地図にプロットし、春の渡りでは太平洋・瀬戸内海を通過する記録がほぼ存在しない(大阪1件のみ)ことから、春の北上時には太平洋側ルートは推測できないとしています。

一方、秋の南下になると標識調査で確認されるポイントは太平洋側や瀬戸内海沿岸にも分散することから、多くは日本海側であるにしても、少数は太平洋側に分散していると推測しています。

香川県で出会うのは？

前述の香川県・愛媛県の記録も8月～9月であり、秋の渡りであることから、香川県で出会う可能性が最も高いのは、8月後半から10月前半までと考えられます。

環境としては、やはり広葉樹林。落葉・常緑の別はあまり関係ないようですが、峰山で捕獲した地点を考えると、やはりだいたい2m程度の樹高は必要のようです。低木・下草がある方が望ましいでしょう。

また、個体数がかなり少ないことから、渡りの野鳥の密度が高くなる場所が良さそうです。種数・個体数共に評判の良い山地、峰山や屋島・荘内半島先端などが期待できそうです。

一方、同時期に干拓地やため池の周囲などで出会った場合は、まずはシマセンニュウを疑うべきでしょう。香川県では両種ともに馴染みが薄く、記録も少ないのですが、シギ・チドリ類の観察時などにチェックしやすいシマセンニュウの方が、より出会う可能性は高いと思われます。

エゾセンニュウの記録は、北海道以外では1件1件が非常に重要な意味を持ちます。ぜひ秋の渡り時期には、頭の片隅においてチェックしてみましょう。

〈参考文献〉頭に◎を付した文献は、インターネットで全文を読むことができます。

- ◎石沢 慈鳥・中村 司, 1964. エゾセンニュウの渡りに関する研究 1. 本州及びその周辺の分布と渡り. 山階鳥類研究所研究報告 第4巻第2号(No.22)
- ・繁里昇・岩田篤志, 2015. 五色台において確認された鳥類記録(中間報告). 香川県野鳥記録・研究報告集 Woodpecker vol.3. 香川の野鳥を守る会
- ◎井戸浩之・今田吉孝・小畑義之, 2009. 愛媛県におけるエゾセンニュウ *Locustella fasciata* とマキノセンニュウ *L. lanceolata* の初記録. 山階鳥類学雑誌 第41巻1号
- ・日本野鳥の会徳島県支部, 1988. 徳島県鳥類目録 1987.
- ・日本野鳥の会香川県支部, 1991. 「かいつぶり」1991年10月号
- ・日本鳥学会, 2012. 日本鳥類目録(改訂第7版). 日本鳥学会
- ・香川野鳥の会, 1977. 香川県鳥類目録 A list of Aves in Kagawa 1977. 11.20
- ◎岩田篤志, 2005. 鳥類標識調査によるエゾセンニュウ *Locustella fasciolata* の香川県初標識記録. 香川生物(香川生物学会)
- ・山根みどり, 2015. エゾセンニュウ *Locustella fasciolata amnicola* の兵庫県標識初記録と過去の渡りに関する記録について. 日本鳥類標識協会誌 Vol. 27 No. 1